

コロナ禍における学校の休講状況とオンライン授業に関する国際比較

加納 寛子

山形大学 学術研究院

連絡先: <kanoh@pbd.kj.yamagata-u.ac.jp>

- (1) **目的:** 2020 年初頭よりコロナウイルス感染症により、我々の生活・経済・教育等が影響を受けている。教育の側面でも、休講など種々の対策がとられ、ハッシュタグ「#学びを止めない未来の教室」による呼びかけが行われた。小中学校の 99%, 高等学校の 100%が臨時休講を行った(文部科学省, 2020)。臨時休講中に行われた学習内容は、プリントの配布等が中心で、同時双方向型オンライン授業が行われたのは、小学校 8%, 中学校 10%, 高等学校 47%であった。そこで、休講中のオンライン授業の実施状況と休講措置の状況を比較し、学びを止めないための知見を得ることを目的とする。
- (2) **方法:** 対象は世界 122 カ国(有効回答国 105 カ国)、ユネスコとユニセフと世界銀行グループが共同して実施した調査「Survey on National Education Responses to COVID-19 School Closures」のオープンデータを用い検討した。
- (3) **結果:** 図 1 は世界的に外出自粛が求められていた 4 月 10 日時点の学校の休講の状況である。図 2 は 8 月 1 日、図 3 は 9 月 25 日の学校の休講の状況である。この変化を見ると、4 月の時点では、世界

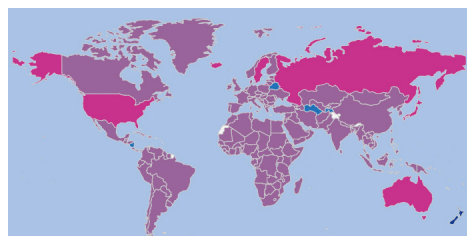


図 1: 2020 年 4 月 10 日

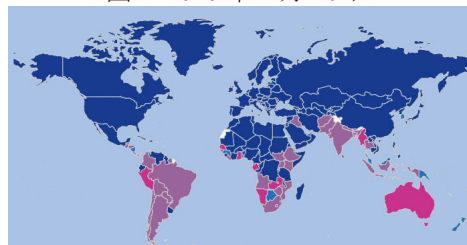


図 2: 2020 年 8 月 1 日

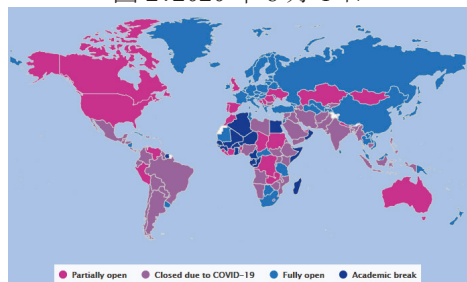


図 3: 2020 年 9 月 25 日

中の大半が休講となっており、8 月には南半球の一部では休講となっているほか、北半球の多くは夏期休業中である。そして 9 月には夏期休業後に再開した地域もあるが、アメリカ大陸やアフリカ大陸では休講措置がとられたままの地域もある。

「休講中にオンライン授業を実施しているか」という質問項目と「9 月現在学校の開校か休講状態であるか」に関して χ^2 検定を行った。その結果は、表 1 に示した。表を見ると、幼稚園 (Pre-primary) に関して、部分開講あるいはコロナ休講をしている国は、休講中にオンライン授業を実施しており、全面開講あるいは公的な休み(夏休みなど)としている国は、休講中にはオンライン授業を実施していない傾向が見られた ($\chi^2(3) = 15.246, p < .01$)。小学校・中学校に関しては、8 割の国でオンライン授業を実施しており、休講中にオンライン授業を実施していない国は、日本及び

南米・アフリカの一部の国にとどまった。なお、小学校及び中学校については期待値が 5 以下のセルがあるためコクランルールにより χ^2 検定を実施できなかった。

長期化するコロナ禍において、幼稚園での傾向に見られたように、オンライン授業の環境が整っていれば、コロナ休講や部分開講にしているも学びの継続が可能である。環境を整えることが急な課題であろう。

(4) 参考文献:

文部科学省(2020) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた公立学校における学習指導等に関する状況について。

表1 休講中にオンライン授業を実施しているか				
幼稚園		はい	いいえ	合計
	全面開講	15	26	41
	(期待値)	20.3	20.7	
	部分開講	11	8	19
	(期待値)	9.4	9.6	
	コロナ休講	23	8	31
	(期待値)	15.4	15.6	
	公的な休み	3	11	14
	(期待値)	6.9	7.1	
合計	52	53	105	
小学校		はい	いいえ	合計
	全面開講	37	8	45
	(期待値)	35.7	9.3	45
	部分開講	18	4	22
	(期待値)	17.4	4.6	22
	コロナ休講	30	5	35
	(期待値)	27.8	7.2	35
	公的な休み	7	7	14
	(期待値)	11.1	2.9	14
合計	92	24	116	
中学校		はい	いいえ	合計
	全面開講	40	5	45
	(期待値)	37.2	7.8	45
	部分開講	17	4	21
	(期待値)	17.3	3.7	21
	コロナ休講	30	5	35
	(期待値)	28.9	6.1	35
	公的な休み	8	6	14
	(期待値)	11.6	2.4	14
合計	95	20	115	